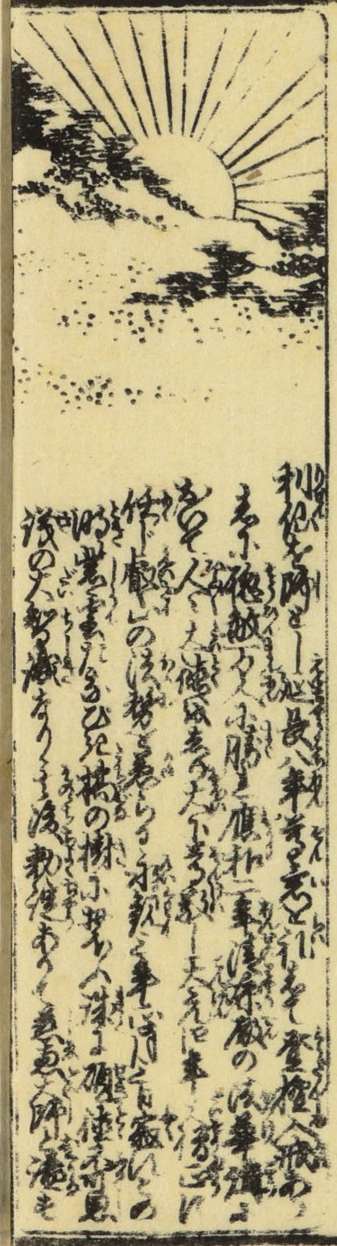
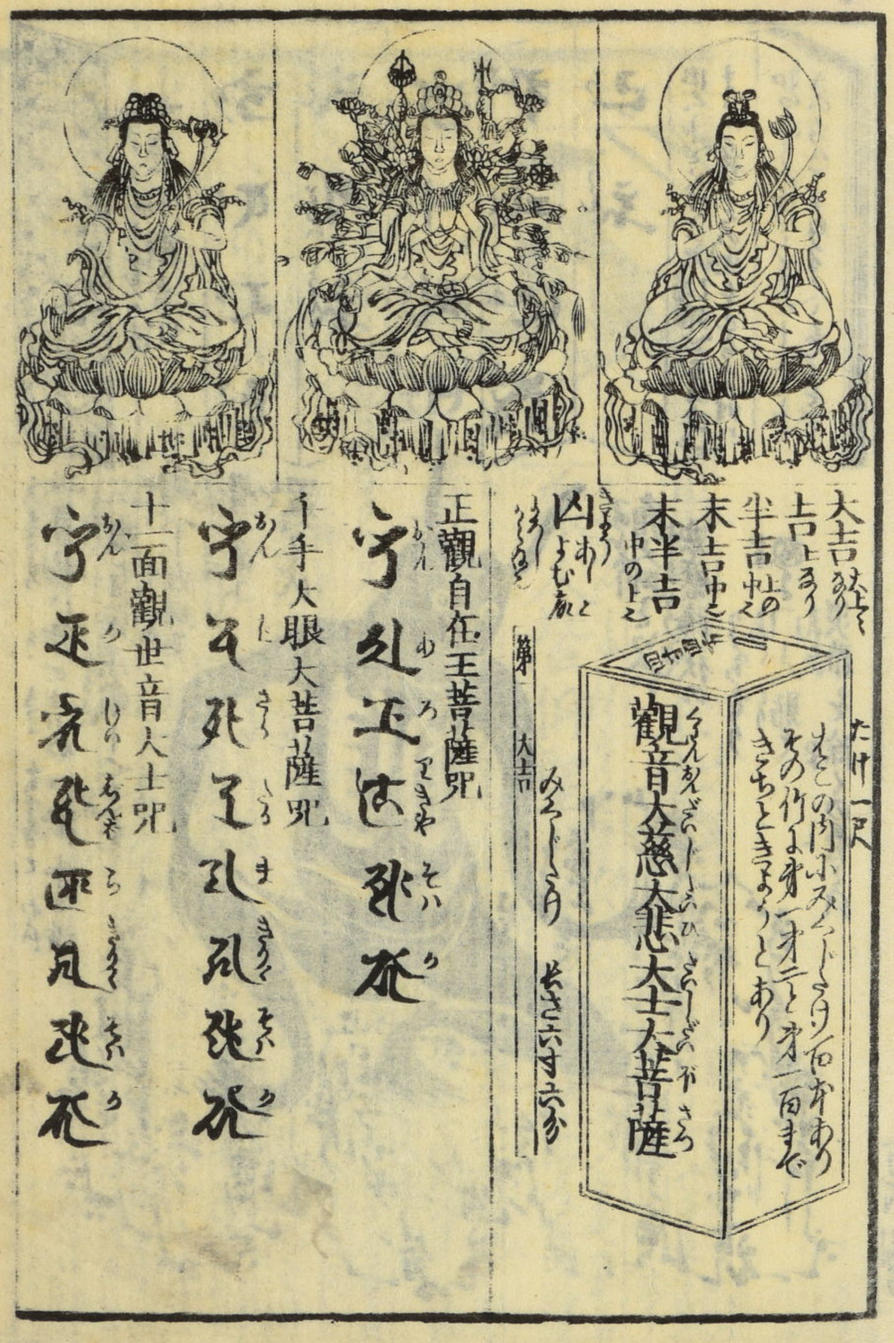
増補 元三大師御闡判斷鈔 全

ハ 4
6205

1-4
6205

増補 元三大師御鬮判断鈔 全





大吉
吉
半吉
末吉
末半吉
凶

観音大慈大悲大士大菩薩

第一　大吉　みくじ　長さ六寸六分

正観自在王菩薩呪

十一面観世音大士呪

千手大眼大菩薩呪

〈2016-180〉

如意輪觀音呪

此書物ハ身を清め口漱手を洗
三度ヒヨウ頂戴して之を
閲べし白地ハ
畳へ直ハ
置べくべ

角大師といふ
魔降伏の
御ふだ
貼て
災難を除くの呪

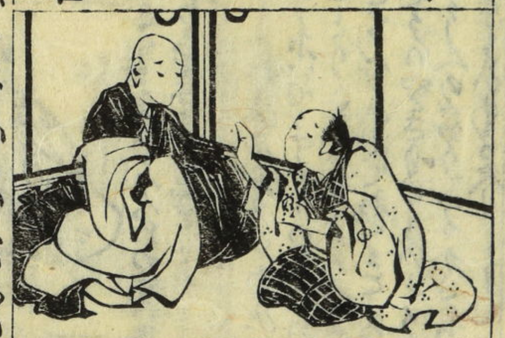
第一大吉

七寶浮圖塔
高峯頂上安
衆人皆仰望
莫作等閑看

くのうちにあつまりうつくしいろ
あるそれいでうるでしこのさくと
かうまりとはさいたるまのこゝろみ
うりけろ
うるこふのはくりすてうたこふ
ゆるぶしたろうるでしこのさくと
のろくのくがことぶのさうをさそ
けうろうるうるとろうりたるぶむる
とのはとろうり
とうろうんとうのあれざうとのはをあてけろ
うるうるうるれバあろそふろうるれ
まんぐうるよろのとろうり

○はるとうぶふあのくのはのはよう方くふうとまち
まちるぶせバいよう〜よう〜○福ハるぶびけぐもろんぐすべ〜ろうとこ死ぶをこ
うぢきとうり〜たよう〜○よろとびぶ十分ふよう〜○はるのうもとこ
べ〜○のひぶんうけあひいうべ〜○はるのうもとこ
きうれいぶぐ〜のちあいいづうとあるべ〜○屋ぶたうりこまう〜げんぐよろうとう
むとうりこびこちよろづよう〜○生まあい死すべ〜いんとるのまバわとけのうくん
もとてんぐひわてあるとろるあまバるり○うろうめハまあり○ぶうるるのうこ
いろるのやきりのるのいろくあぶんうこれのろうべ〜○とのうくぶかりのぶとう
ぢうりくへのぐりうるかうちるとバまるとバ
ひぶるるひあるべ〜

第三小吉



月被浮雲翳
立事自昏迷
幸乞陰合祐
何慮不開眉

○ひとりごとにいはくこのごろのうきよのなりはひをみるに
まことにせけんのことわざにいふがごとくにて
ものいひかたちもいとやさしくこころばせもよく
ものしりにして
ものいひかたちもいとやさしくこころばせもよく
ものしりにして
ものいひかたちもいとやさしくこころばせもよく
ものしりにして

第四　吉

累有興雲志
君恩禄未封
若逢侯手印
好事始念々

○はるばるとおもひあがりのうちかかるまでもはるゝんののぞこゝあまりもまぐれたきこゝろぶんさまでものちふハこゝろのごとくせいこゝろぶんすべーちかう人ひかくゝゝもあるひるのゝとこゝあるうりこゝをせへゝゝゝゝせいゝゝゝふハあるべーしー○病人ゝりんぶくすまでもこゝあそこゝろべーしー○まゝらびゝきこゝる○そゝかゝ十分ふかゝるべーしー○うせりの生までもすこゝあそこゝ○生死ハかゝるゝゝゝゝゝ仕あゝせよゝ○ゝびゝちよゝゝゝゝ生そのちゝゝゝゝ仕合ゝゝゝゝゝ

第六　末吉

宅墓鬼凶多

人事有交詫

傷財損失防

祈福始中和

○氏こそ人のうらミ人のこうろどあくそんびやう人をどさんびとうろさあり
あれいとあり
○ものさうある人するやどのてごまちがひあやまちありしとろくこうろどあり
ねうこちあり
○けんかくてまりさんぐのたいえのゆくやうあくそんちんりつてふせでべーおい
うんのあわうとあり
○ところまそのんさうしてんこうとうりのてかこやくけてえんぐせばうあのてちでめ他
人ちんらとまをあんふあうるあり
○氏こそこしふあの人のさくんびたふふこまりこひのちふわんぐこう人ちるがでくちでめいさうて
あくさんぐのそんちろあうろうくまそうあすわどのこまちぐいあり　さまどもつのへ氏
ちびさかぎやうふせいさいぐーくこわけ　えいのーばすあいとさえひさんてさいひ
きくるべきあり○びやうきんいらんしんちんえんさやうふうのこいありきやうてよくこき
くうこくーくよー○うせりのせぐくー○ようとびてぐちめありくのちよー○屋住
くうこくまーーに。くどーてきやくーきまりあてそうあひくーーおうくこいうけあひ
すんでせばまけるとあわりあうぐきくーせばうちふあうあり○まうちびと
きくまとくーあ○ぐうくんちうあうくーーー

第八　大吉

勿頭中尾見

文華須得理

禾刀自偶然

當遇非常喜

○ことしはぶんぶんふくんひらけさくべしゆめのつうりかるのはうぎやうもんさようたとおりひやうしのこころまことあり佐もべー○ひやう人ぶんぐすべーむりしじのぶぐ佐ぐ佐ずはまことあとうりうせいさんようきさるまあそせいさんようあり○うせものすておくしも出るなり○石見ハをカくこのものくーとうぐひのうあり○あるこひうけあひ十分ものこるべー○さびぐちよーはじ石ぼまふやぐんすべー人をかくるこころよーこんまとい○そもやり　あひのまこ不ふうのハ仕ーこそ石ものこるべー

第九　大吉

有名須得遇

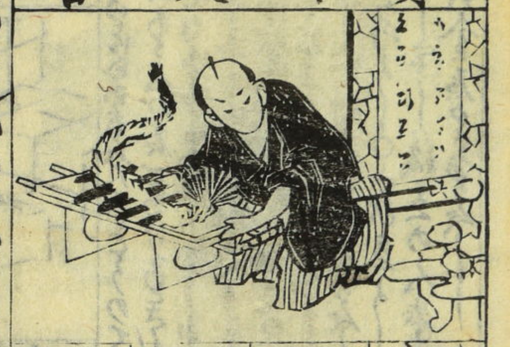
三望一斯遷

貴人来指處

華菓應時鮮

○このことしはあふ人ハまこうのてんかのかることきさるこのこのこの

第十大吉



舊用多成破

新更始見財

政求雲外望

枯木遇春開

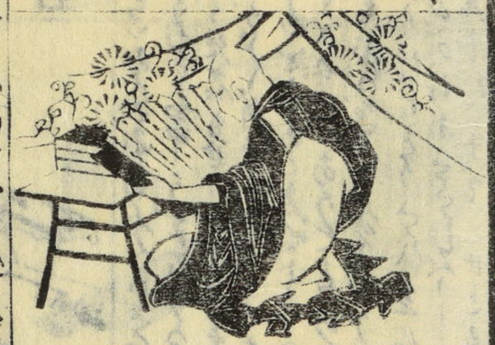
○このとし[illegible]ゐあふ人いことまちがあり仕合よくあるあり[illegible]ものざりしだくのひろうんあり仕合よくすべし大ゐ利とくあるあり[illegible]の人[illegible]ものおぼえ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

第十二大吉

楊柳遇春時
殘花發舊枝
重々霜雪裡
黄金色更輝

○この三ヒ三ホあり人いさんのそるれあるそめて牛ものさくどくことも　ものさくどくことをせい
せーともりーくよろこびとうりてやらん者ひもよれとくねとあり世のあるこのひさーけまびあめくよりるふさるのうんぴきうりおさいそひもよ
きうれすまびよれとるかうおさいそひもよ
りんぐーのうとれおもむーへー仕ーかうるのふ○そ者ろうるのふ○ろうせもの生るおのとことをせい
あそけまどもさるるのう。そ者ろうるのふ○ろうせもの生るおのとことをせい
れあるべー。○ろうことびる十分れとあの○屋住ろうこと者ーよるーとうりひとうり
こびうとうろづよー。○りひぶんあーそひうろべー。○生死十ホ八九いいきる。異物
ようーうひうりのいをやくうの方ようー。○屋住ろうこと者ーよるーとうりひとうり
うけりの手初のうるあり

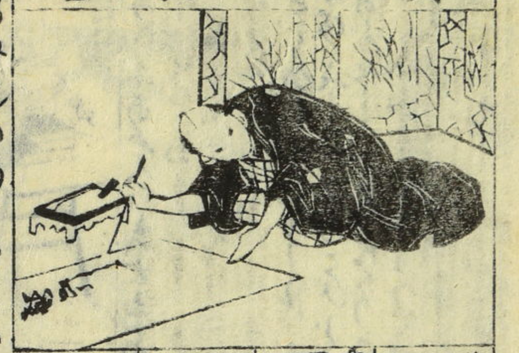
第十三大吉



手把大陽輝
東君發舊枝
稼苗方欲秀
猶更上雲梯

○ふみくにホあるくんの武士ホ家あるーどんホのホくくくホとるとくい
ホ十ホそそそそそそそわまりけすくくくしのまびあどうくんホ
ホきぎ弟うふせいどいぎさびうまえぞホ系ヒそうくんホ
ホりうくべーくものうけもーホのりるくうくんホ
うぎくくひふホあふあうう時、ホもべー。○びやうくんホ
るそびくべーいよろこびど八分ハよー四ぎん
うのうくべー。○屋住ろうこと者ーヒ。ホもう
ホいうひホすくくうそそそそそ。よりくうう
○うびぎどちーホあそ者ーホ。○生死十ホ八九いいきる
ーうりうりのうくくうそ者ーホ。○生死十ホ八九いいきる

第十四　末吉



石玉未分時
憂心轉更悲
前途通大道
花發應殘枝

○このみくじをあたるものは、さいちげのうちあり。さまざまもちんぎゃうせーくひあり。くるまもてんあり。ひらまとぎんかーうまひくるまもてんあり。ひらまとぎんかーうまひくるまもてんあり。ひらまとぎんかーうまひく

第十六　吉

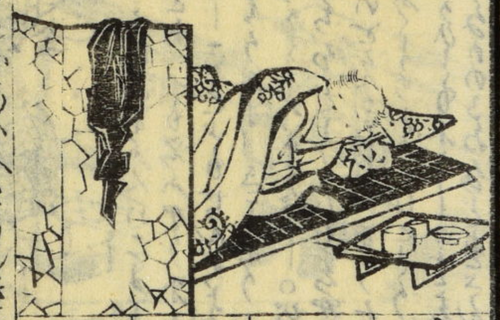
欲政重成望

前途喜亦寧

貴人相助處

祿馬照前程

第十七　凶



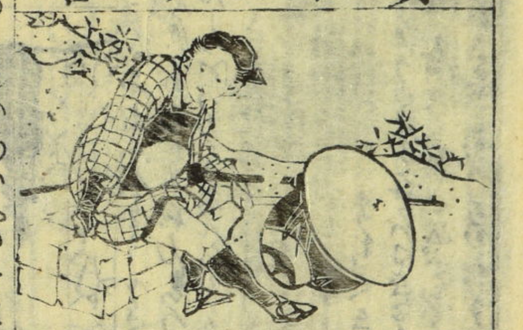
作異防憂惱

人宅見分離

惜華還值雨

杯酒惹閑非

第十八吉



離暗出明時

麻衣變綠衣

舊憂終是退

遇祿應交輝

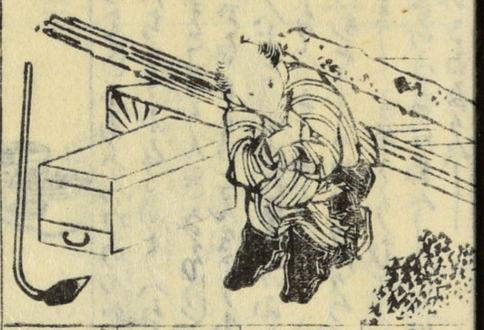
○この[illegible]ふあの人[illegible]こと[illegible]ものよりくらう[illegible]
るふごの[illegible]ものもそのかうふるうこんあり[illegible]
すべー さきどもせんぞよりつさるあぞ[illegible]
のこゑもうふあり さとあり とんをえさうそのも[illegible]
あのうくあり まうべー ○びやう人ろんぶくすう[illegible]
のかのちゐどよう ○そこあるうるうへべー
ひごいどんうあり ○あくそひるうちそうぶ[illegible]
げんぶくよのこうしこくうこびごちよろうよう[illegible]
ろうこひともふよう ○生ちあいいきるこうあ[illegible]
とうみのうああごあごさんさうたのあうべー

いまでいやさのうちとやくこうあち
ろうーダあそやよのあけこうがうふ
ごうれうこいあり
ふんぶ いやきあこのころりとめたすこうあ
ちーさこどりのこうもをさるこくよ
きるふあのべー

こと[illegible]までのうんそのどさうてこうあ
りー ろたこうあひくきこるこい
ろう

きんく あのうくあつまうう人ものうく
かむ[illegible]ぶんこうあうべー こうあ

第十九末小吉



家道生荊棘

兒孫防虎威

杏前祈福厚

方得免分離

○この[illegible]ふあの人の[illegible]ぞうあるひいたうよ[illegible]ぶん
らば又と同よあどふいちうう[illegible]人あ[illegible]
ろあのちくふようそあひくさうりもたくひうん
とのうう[illegible]の[illegible]ぶ[illegible]ぞのふうく[illegible]
ーくこうけこうんんんしこう ○ようこ[illegible]
ありうえ合すべー ○彼人ちそけまどもきこう
すぎそ生こうこあべー ○あくそひるうんんこう
○金ぼくうこうこまー ようくうりひこうりげん
ようくうんべうーこう ○生ちあい十ふ八九いうこうう
大工石ぞぶうくみどううべー

うざうりくうりかぶざうあうりそこふ
いむくのどくさうりあうくさまこげふ
とあうくあり

おそくいるやまどくこのくいわせのつくいち
どううこいくをうふ見もあうくそひのじやま
あるあくれそんうのいざふせくこうろ
うどこうこくわくこりどいのうりうこのふ
こくさびこれまでさまこげせ さうりも
さうくこうこうろ

えんでのくふうくちうくふあらうこと
うう人あどもあくこくあうこと

ざうりくうりかぶざうあうりそこふ
いむくのどくさうりあうくさまこげふ
とあうくあり

おそくいるやまどくこのくいわせのつくいち
どううこいくをうふ見もあうくそひのじやま
あるあくれそんうのいざふせくこうろ
うどこうこくわくこりどいのうりうこのふ
こくさびこれまでさまこげせ さうりも
さうくこうこうろ

えんでのくふうくちうくふあらうこと
うう人あどもあくこくあうこと

第二十吉

月出漸分明

今まで[illegible]のことするごく[illegible]ちあるざしげ今月のひぞーごく[illegible]

家財毎々興

うざいもあるくあつまりてさのふ[illegible]いそろそんどやうふるりーくの[illegible]

何言先有満

あるくよるたくしもそまとのこ[illegible]ところふやさんとちやうばるるしらぐこ[illegible]

更寢立功名

この上ふもようくらふつしこうぎやうふ[illegible]せいをいぐーるをあげあるとあこびくふ[illegible]うすべーこるり

○このこびふあくくはあんやふはたの出さるでく今まぞのくらうちんたいもさうた[illegible]今いちうくふるるめうくるどぜきこうあぎやうもあるくえんどやうふるりあされ[illegible]どもすこーうんきるるりしこたれをこのことあるでりわいまくるれバものうくとうく[illegible]すがでくれこのこんきこうふうくべーよくくたくしこと分のあこるひをじくすべー[illegible]○病人よこーよくるる方ふもんやうぎやうよくせびあるくわんぶくすべー○よろこび[illegible]るるるふ○そーやうよーこーつちこるくいあやまちあるべー○まちくくさるる[illegible]ぎーあそーー○りひぶんろべーーこびをひうえめれせびくうくくべー○屋作り[illegible]こまーよめくうけとうげんぶくこびるくこーーー

第二十二吉

漸々濃雲散

看々月再明

逢春華草秀

雨過竹重青

○このごろはあんまりくるの月のまへのくものぐあひとてもよくてあり
てあるのうんすくなくものごとひとちがひてあり
てせわしいのであるがすこしはあるがすこしはあ
りきこともうへつてきたるものはるのくるのせい
○病人のかりにたちさうさまどもこころがけ
あるがくるのかべー○そこをうつくるのへ
ぐーあるべー○屋敷くりこまこまーよ
うりひかりりのいのちべべーべー○ま
らちあるべべー○生ーあいのこまる○こうつく
ちやべうやこうわるべべーべー

第二十三吉

紅雲隨歩起

一箭中青霄

鹿行千里遠

爭知去路遥

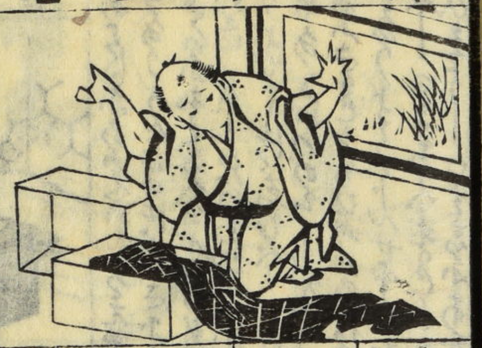
○このごろはじめあんまりまこれはひーべてあるものはるのべ
ちべーべーちべーべーべーべーべーべーべ大きるのべーべ
今日のすることあるりーべーべーべーべーべーべ
○びべーべーべーべーべーべーべーべーべーべ
のちこべーべーべーべーべーべーべーべーべ
べーべーべーべーべーべーべーべーべーべ
あるべーべーべーべーべーべーべーべーべ
よるべーべーべーべーべーべーべーべーべ
べーべーべーべーべーべーべーべーべーべ
べーべーべーべーべーべーべーべーべーべ
べーべーべーべーべーべーべーべーべーべ
べーべーべーべーべーべーべーべーべーべ
べーべーべーべーべーべーべーべーべーべ
べーべーべーべーべーべーべーべーべーべ
べーべーべーべーべーべーべーべーべーべ
べーべーべーべーべーべーべーべーべーべ
べーべーべーべーべーべーべーべーべーべ
べーべーべーべーべーべーべーべーべーべ
べーべーべーべーべーべーべーべーべーべ

第二十四丙

三女莫相逢
盟言説未通
門裏心肝掛
縞素子重々

○このこゝにふあんいろをたゞくるまでもなくこゝはとくべつのことをたゞくしぜんとこゝをたゞくーさあくうまとひがごとまでもとくに人のさるさげたくしていよく仕ようぜんさまでものまごたくしぜんとくらひかふようてそんざんすれば
のちゆいとるのところあり さまでびやりーと
とあり仕ようもなしべー ○びかう人のびけどもさそうのーもんのうーこゝであるべー ○よろこびるそんたあり ○そもそうさるそげする人ありてきうゆいるのひとのちゆいとるのべー ○まち人きこゝびの ○うりせのあさみくこゝるまびのちゆうをあり ○うりうひあーく ○ゑ仕くうりことまーげんぶくよあーくり むこゝうこゝびうり ○ざうなくいをかうこみふゑを又い
ざちようーうーこゝび ○いきこゝるゆいきこゝるゆう
第二十四丙おわり

第二十五古



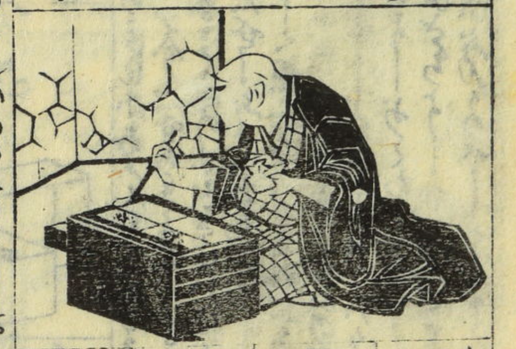
枯木逢春生
前途必利享
亦得佳人箭
乗車祿自行

○このこゝにふあんいこゝまでをくるまのふのちゆうせーゞ今ゑせちきこうくるまこゝるさのちるふあるいそるみさくこのーこゝきこゝい仕合ゆかやちーう人月上の人のひきこゝてふあのをまちしちゆうせーぶーいこゝんろくこゝまーー町人いこゝんかうとあわすこゝるふあうのようくゆのゆひこゝーく仕ようふうけまびゆのふでもこゝろのまこゝふあちんのふうーすべー ○うせりのあのづくこゝいづるこゝるふあるこゝあうーゞ死のこゝるーゞいづるゆうべー ○ようろこゝうりこゝこゝるせようーおくゆそうろべー ○ゑ仕くうりこゝこゝるこゝびゞこゝちようー ○うひゆめすーこゝこゝうこゝびゞこゝゆこゝこゝまーー げんぶくーよゆーとりこゝまこゝりうりうりりのいこゝゆくこゝうこゝうりのーー ○ひひぶんろべー ○ゑ仕くいゆゞうちひつ衣こゝいのこゝびひこゝうり

あとうまとせーーこゝもこゝるふゆこれゞいまこゝめを出すゞくーくゆこゝうんゞひけゞこゝうまこゝいこゝこゝよろこびこゝこゝるこゝのこゝくゆのこゝ

ぜんこゝゆくーすゆのこゝゆこゝこゝいこゝよろこゝくこゝろこゝこゝうむこゝゆこゝゆこゝゆこゝこゝこゝいこゝこゝこゝ字ゆこゝうこゝゆこゝゆこゝゆこゝこゝこゝ

第二十六 吉



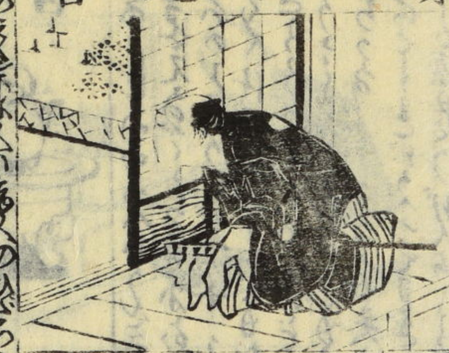
将軍有異声
進兵萬里程
争知臨敵處
道勝却虚名

○あるこゝにふあんのこゝろえやうふようてようきことあり又あーきまもなくあるこゝろあるうんきのはようさふ十ろせてようづこゝろぶりあるこゝろのもどけんかゝとまりゝ家ぎふうふ
ぞこのふわこゝろへあんぎの月とあるゝ又こゝろさでーくのもどけんかゝとまりゝ家ぎふうふ
せいさいざんこゝろいあひくふあもんぐやしきこゝろあるこゝろあのぐゝあるまたびりんぶくこん
ありよくはこゝろひべーーー

第二十八函

意速無船渡
波深必誤身
切須回舊路
方可逸災巡

第一十九吉



憂慮漸消融
求名得再通
寶財臨祿位
當遇主人公

第三十半吉

仙崖立高枝
防他暗箭虧
井畔剛刀利
戸内更防危

第三十一末吉

鯤鯨未寝時
且守碧潭淇
風雲興巨浪
一息過天涯

第三十二吉

似王藏深石

休將故眼看

一朝良匠別

方見寶光寒

第三十三吉

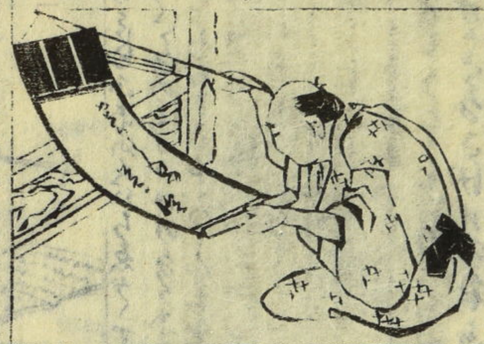
枯木逢春艶

芳菲再發林

雲間方見月

前遇貴人欽

第三十四吉



臘木春將至
芳菲喜再新
鯤鯨興巨浪
舉釣祿爲真

第三十五吉

財鹿須乘箭
胡僧引路歸
遇道同仙籌
光華映晚暉

第三十六　末吉

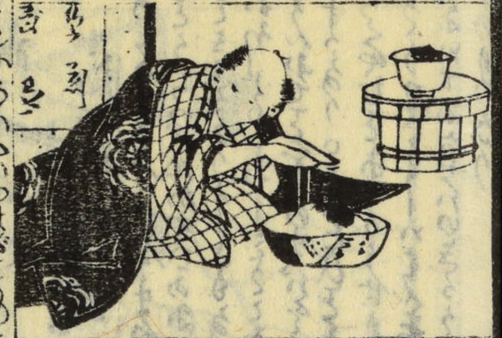
先損後有益

如月之剝蝕

上兎待重生

光華當滿室

第三十七　半吉



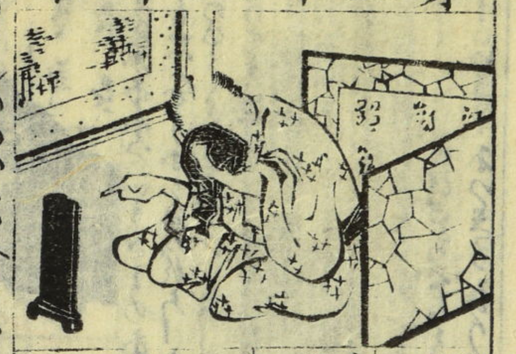
陰霧未能通

求名亦未逢

幸然須有變

一箭中雙鴻

第三十八半吉



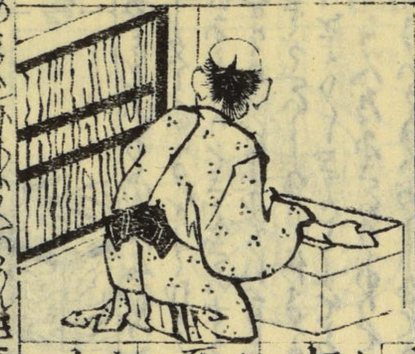
月照天書静

雲生霧彩霞

久想離庭客

無事惹咨嗟

第三十九凶



望用方心腹

家郷被火災

憂危三五度

出損頭財

第四十末小吉

中正方成道

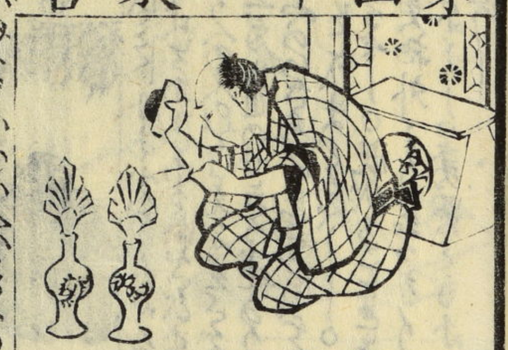
邪恐惹徒

壺中盛妙藥

非久去煩煎

○このごとし　おもいのうちにもづこころにたえそいよ〳〵
多く〳〵くるしみとすくひ人のこゝろにかなはぬゆう
げいおほりてさんざいすることをつゝしこゝろに
たゝすりぐべまゝそくいうとをこゝろに身の
あくさぐさこゝろのうちはるもうこゝにたゝふ
あ〳〵さよう〳〵ぎんこゝろにてくすすべ〳〵
○まちに人たゝおさこゝろのあてあて〳〵○うい
〳〵たるひこゝろのくおゝ〳〵おそもひゑんのまひ
〳〵○こゝろうひえんよ〳〵○こゝびぐち屋つく
○生死たゝ長人の生死人の死す○たゝくいぜんこゝろ

第四十一末吉



有物不周旋

須防損半邊

家鄉煙火裏

祈福始安然

○ふみのトふかいの人ふこゝろくうんきこゝろふかくこゝ
ろつのこゝろあるくおこゝろよふたさそこゝ
あこゝろあるふひさすゝ外ふのこゝ
まるのれのぞこゝをかあてつこゝをまのくゝ
ゝくべこゝろくこゝまゝ身ふあゝくべ
○病びるあそゝ○きち人こゝろあ
きぶんいのべ○そこゝをうこゝあそず○
利あゝぶこゝそんがちこゝろ○屋ばこゝろ
屋〳〵○よめこゝろ　むこゝろ人こゝかゝ
まづせるかこゝろこゝろ○屋をゝ金れこゝ

ゝのありこゝなゝ〳〵おゝのみこゝろふ
あゝぶこゝをふゝこゝをがこゝたかたちふ
ゝり

ありふゝくふあゝ〳〵ぬのこゝろゝずこゝん
ぶんそんこゝをこゝこゝろゝこゝこゝちこゝろ
たけこゝろこゝんゝゝをゝのこゝんゝこゝふふゝこゝ

家火ぎいのゝ中ふあこゝりこゝいまふも
かけこゝろあるゝすゝこゝふゝこゝとゝこゝをゝゝや
あゝ〳〵ふゝこゝ人こゝり

こゝんゝゝこゝこゝたゝかこゝ外こゝりのゝりまこゝこゝの
こゝこゝろゝぶゝこゝりゝばゝぢゝんゝのこゝんこゝのゝぎこゝ
こゝゝぢゝめこゝんゝどゝすゝべゝ〳〵こゝゝりゝ

こゝゝこゝゝこゝこゝこ

第四十二吉

桂華春將到

雲天好進程

貴人相遇處

暗月再分明

○此こゝにおあらハるのうちんのこゝをかんがへさるべきなり。ちゝはゝのおやこのあいだ。ふうふのあいだ。あるいハ。ともだちのあいだ。めうとのあいだ。そのほかえんだんをとるせゝあるものハ。たゝくさんのおわりをくへごとなり。

○此こゝにおあらハるのうちんのこゝをかんがへさるべきなり。ちゝはゝのおやこのあいだ。ふうふのあいだ。あるいハ。ともだちのあいだ。めうとのあいだ。そのほかえんだんをとるせゝあるものハ。たゝくさんのおわりをくへごとなり。

○此こゝにおあらハるのうちんのこゝをかんがへさるべきなり。ちゝはゝのおやこのあいだ。ふうふのあいだ。あるいハ。ともだちのあいだ。めうとのあいだ。そのほかえんだんをとるせゝあるものハ。たゝくさんのおわりをくへごとなり。

○此こゝにおあらハるのうちんのこゝをかんがへさるべきなり。ちゝはゝのおやこのあいだ。ふうふのあいだ。あるいハ。ともだちのあいだ。めうとのあいだ。そのほかえんだんをとるせゝあるものハ。たゝくさんのおわりをくへごとなり。

○此こゝにおあらハるのうちんのこゝをかんがへさるべきなり。ちゝはゝのおやこのあいだ。ふうふのあいだ。あるいハ。ともだちのあいだ。めうとのあいだ。そのほかえんだんをとるせゝあるものハ。たゝくさんのおわりをくへごとなり。

○此こゝにおあらハるのうちんのこゝをかんがへさるべきなり。ちゝはゝのおやこのあいだ。ふうふのあいだ。あるいハ。ともだちのあいだ。めうとのあいだ。そのほかえんだんをとるせゝあるものハ。たゝくさんのおわりをくへごとなり。

○此こゝにおあらハるのうちんのこゝをかんがへさるべきなり。ちゝはゝのおやこのあいだ。ふうふのあいだ。あるいハ。ともだちのあいだ。めうとのあいだ。そのほかえんだんをとるせゝあるものハ。たゝくさんのおわりをくへごとなり。

第四十三吉

月桂將相滿

追鹿映山溪

貴人乘遠箭

好事始相齊

○此こゝにおあらハるのうちんのこゝをかんがへさるべきなり。ちゝはゝのおやこのあいだ。ふうふのあいだ。あるいハ。ともだちのあいだ。めうとのあいだ。そのほかえんだんをとるせゝあるものハ。たゝくさんのおわりをくへごとなり。

○此こゝにおあらハるのうちんのこゝをかんがへさるべきなり。ちゝはゝのおやこのあいだ。ふうふのあいだ。あるいハ。ともだちのあいだ。めうとのあいだ。そのほかえんだんをとるせゝあるものハ。たゝくさんのおわりをくへごとなり。

○此こゝにおあらハるのうちんのこゝをかんがへさるべきなり。ちゝはゝのおやこのあいだ。ふうふのあいだ。あるいハ。ともだちのあいだ。めうとのあいだ。そのほかえんだんをとるせゝあるものハ。たゝくさんのおわりをくへごとなり。

○此こゝにおあらハるのうちんのこゝをかんがへさるべきなり。ちゝはゝのおやこのあいだ。ふうふのあいだ。あるいハ。ともだちのあいだ。めうとのあいだ。そのほかえんだんをとるせゝあるものハ。たゝくさんのおわりをくへごとなり。

○此こゝにおあらハるのうちんのこゝをかんがへさるべきなり。ちゝはゝのおやこのあいだ。ふうふのあいだ。あるいハ。ともだちのあいだ。めうとのあいだ。そのほかえんだんをとるせゝあるものハ。たゝくさんのおわりをくへごとなり。

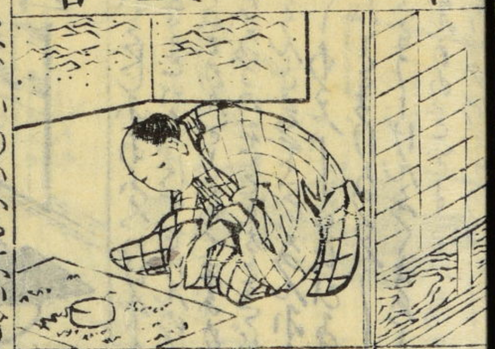
第四十四吉

盤中黒白子
一著要先機

天龍降甘澤
洗出舊根碁

○ここ[illegible]あり[illegible]ども[illegible]ばかり[illegible]ことよ[illegible]利を[illegible]ども[illegible]ありよ[illegible]医者[illegible]かの[illegible]ばかり[illegible]屋[illegible]

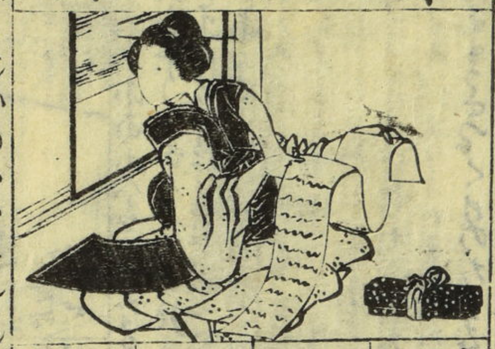
第四十五吉



有意興高顯
祿馬引前程
得遇雲中箭
芝蘭滿路生

○[illegible]

第四十六 六



雷發震天昏

佳人獨掩門

交加文書上

無事也遭存

○ばくちをしてゐるうちにかみなりがなりはじめ、あめがふりだしてきたるに、ばくちをしてゐるものは、ばくちをしてゐるうちに、か

第四十八小吉

見禄隔前溪
勞心休更迷
一朝逢好渡
鸞鳳入雲飛

○ふくじゅのかみ人はちゑのぞくとゞもさまとげ有て目ゐ不足まゝゞもゆふなるかぐーたまをんにじくかるんしあせまゞのぞくとゞもゆのぬのとゞゆ〳〵ゆふなるゆのかゆをまゆくゆりさゆりゆふせいぐーまゝをゆしてかゞゆゆとけをゆのうてゆをゆせゆのゆゆ人ゆゆゆ

第五十吉

有達宜更變

重山利政逢

前途相偶合

財祿保亨通

第五十一吉

修進甚功奇

勞生未得時

騰身遊碧漢

方得遇高枝

第五十二函

有僭須惹訟

兼有事交加

門裏防人厄

災臨莫嘆嗟

第五十三吉

久困漸能安

雲書降印權

殘花終結實

時亨祿自遷

第五十四凶

身同意不同

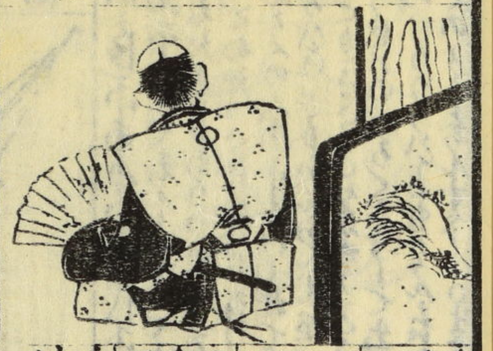
月蝕暗長空

輪錐常在手

魚水未相逢

○此こたびはあふ人のうんさかいるくがのもんがもんがえけんぞくえをわらいうくもこころわたびをれるるまこころんぞこんさらしまうくもさえくもやえるものびんをぜんかこわがりくぐまうこるくこるこるこ仕合ものわうえべーさもあくびもんしゃうたものこのらしぜいーあのえべーひうせりの出ぐうー○まちんきこーけ○ろうこぶるのなかーのぞこころのかるひがこうー○えまあうかるひくこうくーそんありびんあまえびべーー○屋はくりとこまうーげんぶくーあこうむこころ人をかん旅ぐぐ所まるしの○いえ死い十ふ八九いもぶつこうのーー○ろくこいかるのるのるべー

第五十五吉



雲散月重明

天書得志誠

雖然多阻滯

花發再重榮

○此こたびはあふ人いまるまでのうえのさまさげどこころのるるぐこいるんろくすここ衣をあこうこうーそこえんのせうこくこの○見若ふるるこぬえんぐのこころのり衣ここーかこぬ人の月ふこものかるぐこくやてまこうまこうまこうまひこうこ衣死とまりりこえげこかせこバ大ふえころこるるりこちこるるり○ろこぶどうー○まこうせもの出ろるのくトふもうべーー○ろうせもの出ろるのくトふもうべーー○あこくこふぐころなり○屋はこりこうこまうーげんぶくこあこうむこころ人をかん旅ぐぐ所まるしの○いえ死い十ふ八九いもぶつこうのーー○ろくこいかるのるのるべー

くもちろう月をさこびせろこくこんのこふのくこいの今まぐのあいさまこうこあんせなるるるり

てんぞの天のす星のあるせるのあこるるふひこるこのこのんのぶまこふかるるあるるみこそのすこそこびあるぶこるり

ちこうこるのこのりこさこうこさこうこるるるのんふこうこのこうこのこのこの

第五十六末小吉

生涯喜又憂
未老先白頭
勞心千百度
方遇貴人留

○氏こゝに小あきんどを一代ふしろくくいちろう初んすれどもいらんさまし〜くちろう初んすべし〜○ちかいうんひろくなれてえんしゅうやすし〜又さうそうぶつのうらみあるべし〜○そのこゝろづかいのあるこゝろあるもあるべしつるふさろさあるうさまどもちんぢうしてみすれどもあれどくるしかさちあるうさまどもちんぢうしてみすれどもあれどくるしかさちあるうさまどもちんぢうしてみすれどもあれどくるしかさち

第五十八丶

有徑江海隔
車行峻嶺危
亦防多進退
猶恐小人虛

第五十九丶

太住心無定
行藏亦未寧
一輪清皎潔
却被黑雲瞑

第六十小吉

高危安可渉

平坦是延年

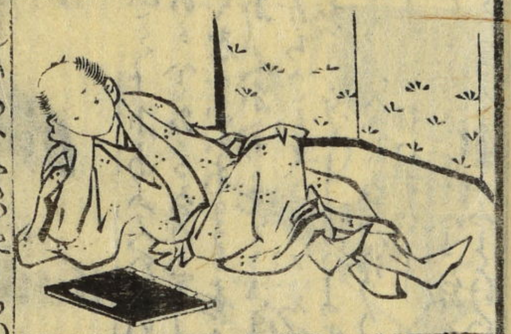
守道當逢泰

風雲不偶然

○式こと[illegible]ふあわ人いらえわひふみよいろはそたのあさんぐとまうけんとすることをこのとし人よりかくべつの名をあげ又はてまりりどおぞうの名をかあの一とかりのことをるせばこぞらひは[illegible]ようせのんいろくいろるるてこいまりうとあえるひあるひあるひあるうあくもんいなし○病人をあくえすりをかちやれいえもとびわんぶくすべし○まちに人さとすかくびひとときわりの男ものるるすべし○そをまうるるひぐこし○あくまびさるくあそけまびきこくび○うせのいのがくし○そをまうるるひぐこし○あくそひるかあわくいのこどんすべし○名はくりことほしげんぶくようあとりむとりひとをかくえるこびとえそんたなり○生死のいらえる○ざうくぐいたかうこみ

ありうのこういなりうべし

第六十一半吉



舊懸何日解

戸内保嬋娟

要逢十一口

遇鼠過牛邊

○式こと[illegible]ふあわ人いらえわひふみよいろはそたのうちのうあをきふしさまでもくんでけまびつひふみよいろはそたのあさんぐとまうけんとすることをこのとし人よりかくべつの名をあげ又はてまりりどおぞうの名をかあの一とかりのことをるせばこぞらひは[illegible]ようせのんいろくいろるるてこいまりうとあえるひあるひあるひあるうあくもんいなし○病人をあくえすりをかちやれいえもとびわんぶくすべし○まちに人さとすかくびひとときわりの男ものるるすべし○そをまうるるひぐこし○あくまびさるくあそけまびきこくび○うせのいのがくし○そをまうるるひぐこし○あくそひるかあわくいのこどんすべし○名はくりことほしげんぶくようあとりむとりひとをかくえるこびとえそんたなり○生死のいらえる○ざうくぐいたかうこみ

ありうのこういなりうべし

○式こと[illegible]ふあわ人いらえわひふみよいろはそたのうちのうあをきふしさまでもくんでけまびつひふみよいろはそたのあさんぐとまうけんとすることをこのとし人よりかくべつの名をあげ又はてまりりどおぞうの名をかあの一とかりのことをるせばこぞらひは[illegible]ようせのんいろくいろるるてこいまりうとあえるひあるひあるひあるうあくもんいなし○病人をあくえすりをかちやれいえもとびわんぶくすべし○まちに人さとすかくびひとときわりの男ものるるすべし○そをまうるるひぐこし○あくまびさるくあそけまびきこくび○うせのいのがくし○そをまうるるひぐこし○あくそひるかあわくいのこどんすべし○名はくりことほしげんぶくようあとりむとりひとをかくえるこびとえそんたなり○生死のいらえる○ざうくぐいたかうこみ

ありうのこういなりうべし

第六十二大吉

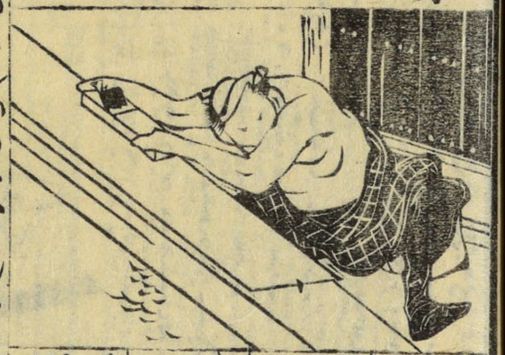
火轟時時退

名顯四方揚

政故重乗祿

昇高福自昌

第六十三凶



何故生荊棘

佳人意漸疎

久困重輪下

黄金未出渠

第六十四凶

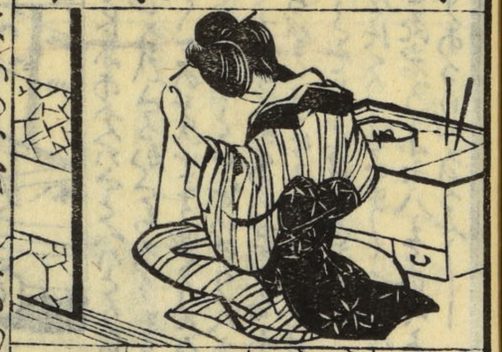
安居且慮危

情深主別離

風飄波浪急

鴛鴦谷自飛

第六十五未吉



若病兼防辱

乘危亦未穌

若見一陽後

方可作良圖

第六十六図

水滯少波濤

飛鴻落羽毛

重憂心緒乱

閑事惹風騒

第六十七図

枯木未生枝

獨歩上雲岐

豈知身未穩

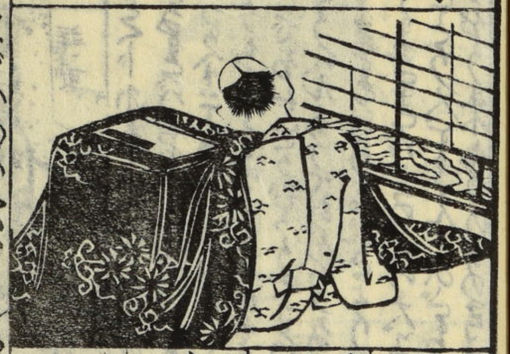
獨自惹閑非

第六十八吉

異夢生英傑
前來事可疑
芳菲春日暖
依舊鼓殘枝

○ふしぎとおもふあの人いとまでいかんをひとあらくはなしがたしもよくぬさのそひさきのうつりかはりくよ
ほのあをさびえだをもつぐ花さきこのうつりかはりくよ
まくらもとのうつりかはりしていのりこまよくうんとんきうてまんだらしんぶつ
ちくしやうこけてまんぐわくるていのうさまびいよく
えのごとのうつべー　○びやうあんおそひのうつれやくうんぶくもべー
あひくよー　○うせのおとひもよくぬとこのうつりかはりくよ
そまをうつどうのあ○あくそひあうつべー　○のそとこのうつりかはりくよ
すまりう○屋つくうとさほげんぶくあとうむとうしのうつりかはりくよ
○ぶやしいうきる○ぶうかくいさ西易のぶうつりかはりくよ
なうつべー

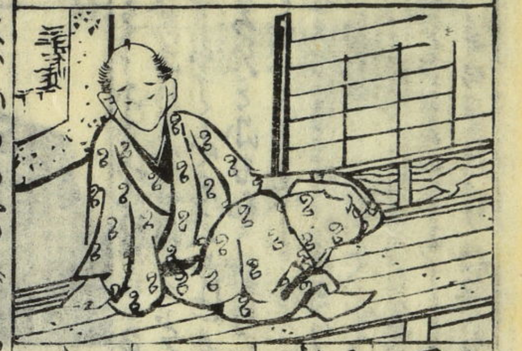
第六十九亥



明月暗雲浮
花紅一半枯
蕙事傷心處
行舟莫遠圖

○ふしぎとおもふあの人いとまでいかんをひとあらくはなしがたしもよくぬさのそひさきのうつりかはりくよ
まくらもとのうつりかはりしていのりこまよくうんとんきうてまんだらしんぶつ
ちくしやうこけてまんぐわくるていのうさまびいよく
えのごとのうつべー　○びやうあんおそひのうつれやくうんぶくもべー
あひくよー　○うせのおとひもよくぬとこのうつりかはりくよ
そまをうつどうのあ○あくそひあうつべー　○のそとこのうつりかはりくよ
すまりう○屋つくうとさほげんぶくあとうむとうしのうつりかはりくよ
○ぶやしいうきる○ぶうかくいさ西易のぶうつりかはりくよ
なうつべー

第七十六

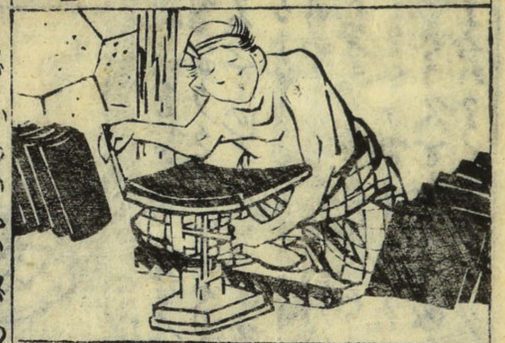


雷発庭前艸　炎火向天飛

一心来趕禄　争奈掩朱扉

○ふとどもふあんいつどうのうんえちびひとりの人なのどいさろひ大るるこぼさろひで生ずるうんるもとびまるもんころ人いとりく十人ていこのろるべーさまるもとえいたいあるさうどうよくつろへまとのとろでよくくさびこざろひろるべーあるべーあるべーあ

第七十二吉



戸内防重厄

華菓見分枝

嚴霜絶過後

方可始相宜

○此ごろ不和人なりてめいあけまどものちかよくく分てあさあくをあつけるべ所ろ見ぶ
ぐうくて表ざかうそんぎかうすべ一こころえあ一くぶんあ一ばあ者ぶ
ぶ一くくあり有ひあるあ一ちひさいくあ一ちくぶんくくあ一ちくぶんくくあ一ちくぶんく

女子三男

許二男

第一男　卯　第三男

三女七

第七十四 凶

蛇虎正交羅
牛牛二尾多
交歳方成慶
上下不能和

○ふしぎ〜ふわのふくいんきつくるくちつくるくるくる

第七十六吉

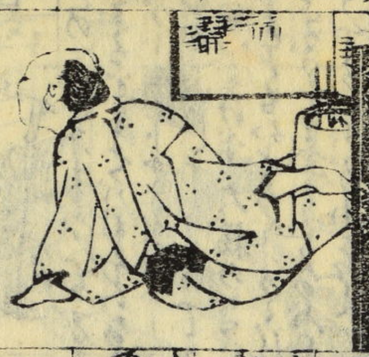
富貴天之祐

何須若用心

前程應顯跡

久用得高臨

第七十七凶



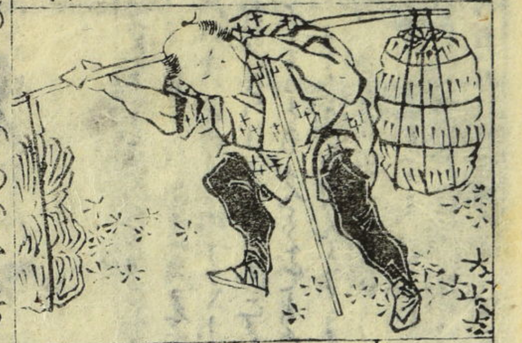
累滯未能休

求名莫遠圖

登舟波浪急

咫尺隔天衢

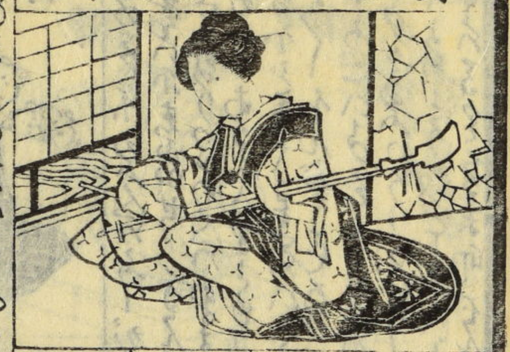
第七十八　大吉



但存正公道
何愁理去忠
松栢蒼々翠
前山祿馬重

○このこくしのかたちをかりてあらはすこと万事ともにくちうつりのかたちをもつてあらはすなり　五月雨せいちきかりさいのるふかもくこれ所のるぐーえんどやうすべー　さまざまのつるの人のこのころをもちてくいさうのことふかんをうこしすこしのすこふもまもなくたいたるのこと不月をうけずして猛のさうをまつべー　○病人ひびにたりんぐくすべー　○夫りのおそけをもつべー　○待人きさる○そのそうをうるふ　○のそこをもうすべー　○あーたるのちれうろ　○ひとりまもしーげんぐくよりあてうりひとりをかえるこびをうろうづけー　○ひたすふいたるのうれるうべー

第七十九　凶



殘月未還光
樽前非語傷
戸中有人厄
祈福保青陽

○このこくしのかたちをかりてあらはすこと　あひてもあれさうけんぐるかさちあるたいたこうこ　ひとりくたをたこうろうこうるこうこ　ひとりくたをたこうろうこうるこうこ　ひとりくたをたこうろうこうる

第八十大吉

深山多養道

忠正帝王宣

鳳逐鸞飛去

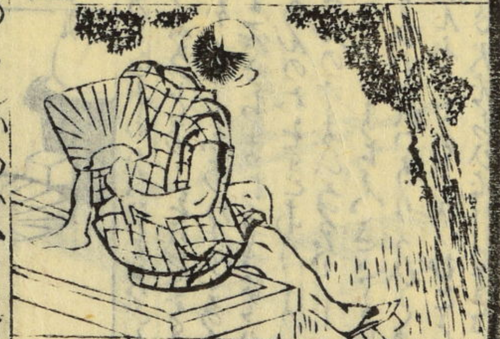
昇高過九天

○このこゝろはあふくいぶーがくもやもあるべしこれん中あそびごとくをもてあそぶべしこれ大きのけんどんなるべし

○ものごとにおいてあふくいぶーがくもやもあるべしこれん中あそびごとくをもてあそぶべしこれ大きのけんどんなるべし

○ものごとにおいてあふくいぶーがくもやもあるべしこれん中あそびごとくをもてあそぶべしこれ大きのけんどんなるべし

第八十一小吉



道合須成合

先憂事更多

所求財寶盛

更変得中和

○このこゝろはあふくいぶーがくもやもあるべしこれん中あそびごとくをもてあそぶべしこれ大きのけんどんなるべし

○このこゝろはあふくいぶーがくもやもあるべしこれん中あそびごとくをもてあそぶべしこれ大きのけんどんなるべし

第八十二古

火發應連天
新愁惹舊愁
欲求千里夕
要渡更無船

○ひとりこたつにあたりながら人ひとりあるいてゆくのをみてそのあとをおもひやるのこころ
ふうふのあいだのこころをまたうつくしきわかいふたりのこころをまたうつくしくさんさいのこころをまたうつくしくさんさいのこころをまたうつくしくさんさい

第八十四函

否極方無泰

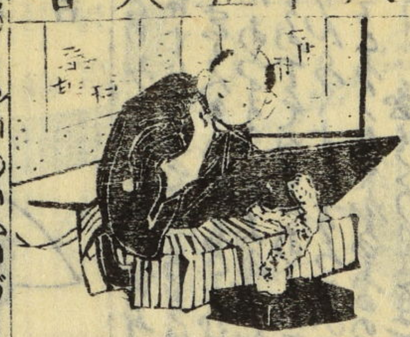
花開値晩秋

人情不調備

財寶鬼來偷

○この三句ハあるひとの元のてんちひのけハひとつ
ありてこれハあるひとの元のつゐてもハかなきものの
ちからにてもなく内の人ものとろふとハ
のとなるべしかくとわとけてもちろんぐ
ちくしびもこのハもあるべしー○せいぜ
○よろこびどなのー○うせものハぬがこー○ぬ
りづまもうるのハび○あるこひるまくべー
ことすー げんぐくよりとりむところひとく紙
○いたもハもるのハどあるべー○どうぐ
あるものあり

第八十五大吉



望用何愁晩

求名漸得寧

雲梯終有望

歸路入蓬瀛

○この三句ハあるひとの元のかのうのかたのおもひ
天保ハかたく ものこのこのこのこのこのこのこ
むかしのりづくー いつハもあたくのどこ
のびくくあさりけんやまりりそもそもをもの
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん
もんもんもんもんもんもんもんもんもんもんもん

第八十六大吉

花發應陽臺

車行進寶財

執文朝帝殿

走馬听声雷

第八十七大吉

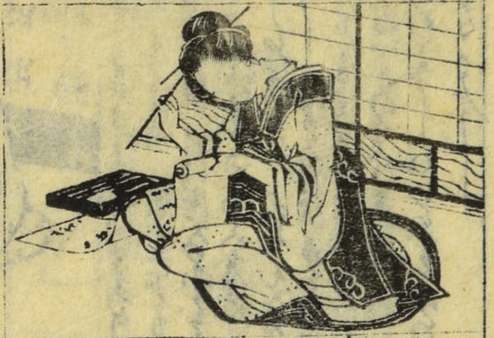
鑿石方逢玉

淘沙始見金

青霄終有路

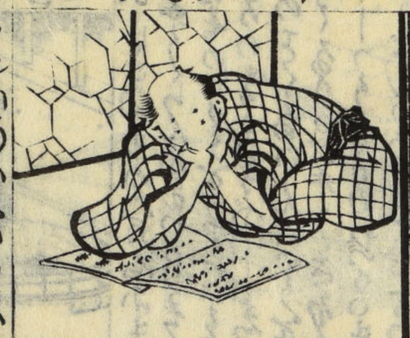
只恐不堅心

第八十八函



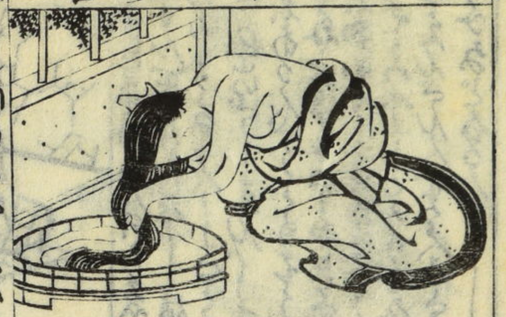
作事不和同
臨危更主凶
住人生若根
閑慮両三重

第八十九大吉



一片無瑕玉
従今好琢磨
得遇高人識
方逢喜氣多

第九十大吉



一信向天飛
奈川舟自帰
前途成好事
應得貴人推

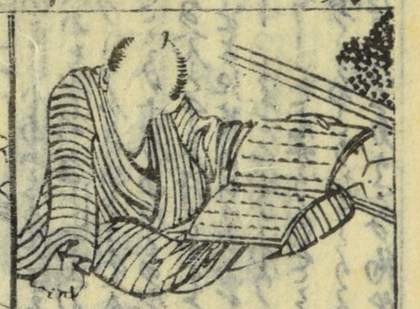
○ぜんとなるこれあり人のくちかまをまねてをるなり
ものあるうらんかあつうきんーーものの世よくをるべ
宅をのちくーとうまてーとろーんものせーーよろ川のの
ところのまくるべーーものくるくるくるかるもとこと
人のどくるのいんいのうをもとこと○びやうきりんぶくす一公
ぶくるり○びやうきりんぶくす一公ふうとこわとけとのやそう
よーーっうせりのいつる○まちくるくきる○をををうる十分ふるふ
どうどん○あくをとどころまをるをるをる

第九十二吉

自幼常為旅
逢春駿馬驕
前程宜進歩
得箭隆青霄

○氏子はいとけなくして人いとまでんぢうちうとうるかこびまする
ゆくすゑおそろしくあるべし
○ぜんぢうは

第九十四半吉



車忌樽前語

そんぜんのごとくに酒の上のことにて決してむべーこころゆるさるべんのまんそなおさこ酒を
いぶんをつーとしべーこころこころ同志

人防小輩交

せうこのもんのほうこのこれをうにはうの
人をめるさこの人とまーにはこのあのかくぶ
ごくぶんーこうーこうぶうこうの

幸乞陰公祐

いんこうこいうこうのあーがこ又のひがあべ
もるをあうりぶこまこのまべこうのふ成
あーこけこべーこるべーこころ

方免事敲爻

うこをこうんこうの人こまーにはりひこうの
ありのこうのこ手けあそこぶこひこけ
ぶあの世のあわりこうこ手、ありり

○ふこうにじはあふんうんきこうーこうりべ申多く云ふーくるこんーこのよう
ーあーこのうのーこころ平く法紀会べーこんいこ
こうこのこうのこうのこうのこうのこうのこうのこうのこうのこうのこうのこうのこ
人るべのもんへ安を申こべを法くーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこ
ろのこべのもちべひこうーあるいるのーこるいるのーこるべるこるひを死べーこ
らべーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこ
○べかこうーこんるべーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこ
こうーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこ
かるのかるあるーあーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこ
げんべーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこ
○ーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこ

第九十五吉

志氣勤修業

こころざしーこころざしーこころざしーこころざしーこころざしーこころざしーこ
ーこころざしーこころざしーこころざしーこころざしーこころざしーこころざ
こころざしーこころざしーこころざしーこころざしーこころざしーこころざし

禄位未造逢

ろくいまだあらざるをつくるべ
さまでもなくまことうのあるこれ
ざるべちこのうこうんねざいまう
ふもあるこころあり

若聞金雞語

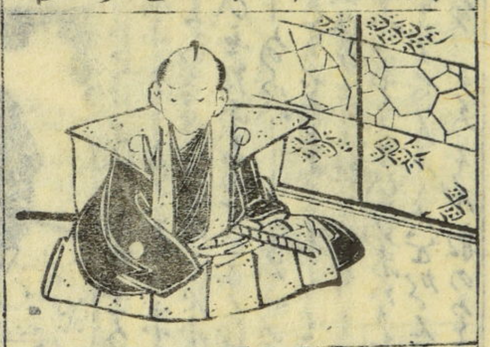
ーきんけいのごとくによるものとうのこ系あり
もこのせのこうらいのこれこまるてこまるこ
らずこのせのこうこれのこれのまるこ

乘船得便風

ーこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこ
びんふーこれのこんこのこのこのこのこのこのこ
きこうてこのこのこのこのこのこのこのこのこ
ーこのこのこのこのこのこのこのこのこのこ

○ふこうにじはあふんうんきこうーこうりべ申多く云ふーくるこんーこのよう
ーあーこのうのーこころ平く法紀会べーこんいこ
こうこのこうのこうのこうのこうのこうのこうのこうのこうのこうのこうのこ
人るべのもんへ安を申こべを法くーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこ
ろのこべのもちべひこうーあるいるのーこるいるのーこるべるこるひを死べーこ
らべーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこ
○べかこうーこんるべーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこ
こうーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこ
かるのかるあるーあーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこ
げんべーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこ
○ーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこーこ
こう

第九十六大吉



雞逐鳳同飛

高林整羽儀

棹舟須濟岸

寶貨滿船歸

○この卦ふかふかいやまくかれぶまとるときをこのむ人のこころ〜ことろく図うえのあるとさをこころのくふかふかいあのづくうくるあり人ふもまりどりすあくいあわひふあるびとりしんすることりさまでもとしてまるびるびくまきつぎろひさちまちふあるよびあるびくまきつぎろひさちまちふあるよびあるびくまきつぎろひさちまちふあるよびあ

第九十八 凶

欲理新絲乱
閑愁足是非
只困羅網裡
相見幾人悲

○このこゝろ小あの人の不仕合にぐきてようろづのよ糸のりまたるでくいづまろふあさえんとおりぐもありくあさあらまびがろぜんとしてあるひるやむさまさるぐふとわとふかをてこゝろ鬼のでくりめちもあやまくとゝろうきまとてうのことゝるまるるのふひ伝ふくぶんくうんのあり〜きりのことえゝろうさまどもかんきいまりてえるまるるのふひ伝ふくぶくあがつゝ色○よろこびるるの〜○うせものの出ぐさ〜○まちくこちふさろうあり
きさゝゝ○そこゝろうのぐこゝるくもふくろのゝ○あゝたひるりまけあり○うゝ
うひくもふコゝろ〜○家ぢくうコゝまり〜げんぐくよゝくりむこゝろふをかえ
えびぐちゝろゝ川コゝろ○いきゝゝあひふゝまゝるのゝぐまあり
ありゝのあゝこのゝるあるゝべ〜〜

ゝん〜ゝふゝゝゝゝいゝのゝぐゝゝゝるのを
ゝんゝゝゝゝ

第一百番函

祿走白雲間
携琴過遠山
不遇神仙面
空惹意闌姍

御籤抄終

早引永代節用集大全

世界節用の書庫といふべき盤據多く大全の實ありて用ふるの便宜今日の急務なり

萬代大雜書懷寶曆　元三大師　中本一冊

御閻判斷鈔　中本一冊

古牧揃講釋　中本一冊

夢合長壽寶　中本一冊

東都書林　大傳馬町二丁目　丁子屋平兵衛版